

# 仲間と困難に立ち向かう『アドベンチャーキャンプ』

【1st キャンプ】 7月20日(土)～22日(月) 2泊3日

【目的】 年3回のキャンプを通して、仲間とともに困難を体験し、話し合ったり支え合ったりすることで、主体的・自主的・前向きに「生き抜く力」(竹のようにしなやかな心)を育む。また、本事業を実施することで、困難に直面した時に主体的・自主的・前向きに「生き抜く力」(しなやかな心)を育むプログラムを開発する。

【参加者】 小学生5年生～中学生1年生 18名(男性11名 女性7名)

## 1日目

11:00 はじまりの会 17:30 野外炊飯  
11:30 アイスブレイク 20:00 グループ  
13:00 TAP A ワーク A  
16:30 テント設営

## 2日目

6:40 野外炊飯 17:00 野外炊飯  
8:00 テント撤収 18:30 テント設営  
9:00 TAP B 19:45 グループ  
13:00 TAP C ワーク B

## 3日目

6:40 野外炊飯 13:30 グループ  
8:00 テント撤収 ワーク C  
10:00 マウンテン 15:00 またねの会  
バイク練習

## 1日目

### はじまりの会



キャンプへのそれぞれの思いを持った仲間と初めて出会い、みんな緊張した表情だった。アイスブレイクでのゲームを一緒に楽しんでいく中で、だんだんと表情から堅さが取れていった。その後、自己紹介やそれぞれの思いを伝え合った。

### TAP A



いくつかの課題解決のゲームを通して、お互いが今回のキャンプの仲間と協力したり意見を交わしたりできた。笑顔とともに真剣な表情も見られた。その中で、それぞれの仲間のことが少しずつ分かってきたようだった。

### テント設営



セカンドキャンプへの技術の習得としてテント設営をした。荒天のため、室内での設営とした。初めての体験の子もいたが、仲間と協力して楽しく安全に設営できた。

## 2日目

### 野外炊飯



食事もセカンドキャンプへの技術習得のため、各自がソロバーナーを使った野外炊飯をした。ソロバーナーは初めて使う子が多く、調理に苦戦している場面もあった。コーンスープを温めたり、パンを焼いたり、苦戦しながらもそれぞれが自分の朝食を作って食べる事ができた。

## TAP B C



1日目と比べて難易度が上がった課題解決のゲームに挑戦した。真剣な表情が増え、課題解決に向けて困惑の表情も見え始めた。ふりかえりでグループのことや達成感、解決するために良かったことなどを、自分の気持ちとともに伝え合っていた。

### グループワーク B



ワークシートを使ってそれぞれが自分のことを振りかえった後、仲間の良いところを付箋に書き、伝え合った。その後、居心地が良くなる行動や事柄について、模造紙に書きだしていき、このグループの規範作りを行った。

## 3日目

### マウンテンバイク練習



移動の全てをマウンテンバイクで行うセカンドキャンプに向けて、それぞれが自分に合うバイクを選び、安全に移動する練習を行った。暑さに負けない体力の必要性も痛感することができた。

### またねの会



最後は、班ごとにふり返しを行った後、みんなで1回目のキャンプについてふり返しをした。セカンドキャンプの概要を聞いた後、テーマソングを歌って再会を誓い解散した。

【参加者の声】「仲間がいるということがこのキャンプでわかった」「協力やあきらめないことも大切だと感じた」「最初は、みんなとあまり仲が良くなかったけど一人の子が声をかけてくれたのがうれしかった。色々な人と協力すると、いい気持ち」といった、感想があった。  
【成果】仲間との関係のことや、協力する事の楽しさなどについてアンケートに多く書かれており、今回のキャンプの目的であった仲間との仲を深めることができた。  
【課題】一人体調不良で一度帰ることになった。セカンドキャンプに向けて、参加者の体力についての確に見ておく体制を構築しておく。